

Costume and Textile

No. 8

服飾文化学会会報

2004年9月

会長選出について

4月3日(土)に開催された平成16年度(2004)第1回理事会において、石山彰会長の任期満了に伴う会長選挙が行われ、新会長に石井とめ子氏が選出されました。

会長就任にあたって

大妻女子大学教授 石井とめ子

この度、平成16年度の第1回理事会において、はからずも本学会会長に推挙されましたが浅学菲才自からその重責を日々痛感しております。

服飾文化学会はその創立より早くも5ヶ年目を迎え、第5回総・大会も本年5月22・23の両日文化女子大学において盛大に催されました。その研究発表を見ましても、そのテーマはきわめて多岐多彩にわたり、その視点並びに照射する角度によってもさまざまな研究分野が現出し、またそのことが更に今後の研究方向を指示していることに、今更のごとく「服飾文化研究」の学術としての奥の深い魅力を痛感させられた次第であります。

本学会も、昨年度は日本学術会議広報協力団体の認定を受け、益々学会としての基盤が充実して参りましたが、これらは前会長石山彰先生を始め役員各先生方のご努力の成果に外なりません。

さて、「21世紀社会」の流動激変する渦中において何人にも将来の予測などは不可能であります。本「服飾文化学会」がその中で果たして行く役割は何か、という重大な課題があります。もち



ろん本学会が、服飾教育及び服飾研究の総合拠点としての服飾文化交流の和が国内のみならず海外にまで広がることを願っております。かつて前会長石山

彰先生がおっしゃったように「広い視野から確かな視点に立って現象の実体をつみとめる」態度を持ちたいものと思っております。私も微力ながら任期中の2年間、役員各先生方のご協力をいただきながら頑張っていきたいと考えております。何とぞ各先生方のご指導ご鞭撻をお願い申し上げて簡単ながら会長就任のご挨拶とさせていただきます。

役割を終えて思う

前学会長 石山 彰

今夏は殊の外熱暑が続きますが、会員の皆様は元気にお過ごしでしょうか。心からお見舞申し上げます。役目を退いた今年



は、お陰様でいつになくのんびり過ごすことができ、救われた心持です。

他方この4年間を振り返ってじくじたる思いの私ですが、幸い役員の皆様の熱意に支えられて、どうにか平穩に維持することができ、喜んでいるところです。そうはいつても、学会のことは日常頭から離れることがありません。なぜなら「服飾文化」とは何か、また「その本質は一体何か」の

課題が念頭から離れないからです。

女子教育の中で占めるこの主題が必然であったことは歴史を辿れば明白です。しかし、文化の様相は今や180度変わりつつあります。先行したアメリカがそうであったように、日常服はUNIQ-LOで済む、そういう時代になったことは深く考えてみる必要があります。なぜなら、それは本質的には、時代・環境と一体であると同時に、遂には人間の心や意思の現われだからです。

(文化女子大学名誉教授)

第5回総会・大会の報告

服飾文化学会第5回総会・大会は、2004年5月22日(土)・23日(日)に文化女子大学を会場として、開催された。新都心、新宿の高層ビル群の一角に位置する開催校は、昨年の創立80周年記念行事に先立って、一連の改修整備を終えたところであった。

当日は、5月にしては少し肌寒い天候の2日間であったが、それも却って清々しく、心引き締まる思いのうちに時間が経過した。今年度は、参加された方々が北海道から関西・沖縄にまで及んだことと、懇親会・見学会ともに学内施設で開催さ



作品展示発表

れたことが特筆される。参加者87名の皆様の熱意とご支援によって、成功裏に終了したことに謝意を申し上げ、概要を次のように報告する。

1) 口頭発表

発表件数は、初日5件、2日目4件で計9件。各発表は、いずれも、選び抜かれた資料を駆使した研究で、日々、多忙を極め、時間的に研究活動を優先できない昨今にあつて、発表に至るまでの尽力の程がうかがわれる内容であった。熱心に聴き入るフロアの研究心も大いに駆り立てられたのではないかと拝察した。

2) 作品展示発表

発表件数は、11件。展示時間は、初日の14時、開会時から2日目の12時まで。ショートスピーチ



見学会：時代衣裳の展示解説 文化学園服飾博物館



特別講演「近代日本と流行」神野由紀氏

は、2日目の11時から行われた。各作品は、素材・デザイン・技術・歴史等の視点にたって制作され、そこに独自のコンセプトが紹介された。そのような創造的で実証的な研究発表は、本学会の特色として興味深く、さらなる発展を期待したい。

3) 総会

永井房子副会長の開会の辞に始まった平成16年度の総会は、池田節子担当理事の司会のもとに、石井とめ子会長の挨拶、開催校の挨拶と続き、伊藤一郎氏を議長に選出して議事に入った。報告事項として、昨年度事業報告・同決算報告と監査報告・平成16・17年度役員選挙報告がなされ、審議事項として、今年度事業計画案・同予算案が承認されて、予定通りに閉会した。

4) 特別講演

講師：神野 由紀 氏

(関東学院大学人間環境学部助教授)

演題：近代日本と流行

—拡大する消費世界と意識の変容—

岡田三郎助・橋口五葉・杉浦非水らのポスターや「三越タイムス」ほかの記事など、多数のスライドを用いて、明治後期から昭和初期までの流行や消費の情勢を社会的文化的事象と捉えての講演で、要旨は、次のようであった。

日本に近代的な消費文化が芽生えたのは日露戦

争前後であり、当時、都市の市民を中心とした中間層は、上昇志向の中で、良い趣味を身に付けることによって自らのアイデンティティを得ようとした。同じ頃、江戸以来の呉服店は百貨店に転身しつつ、流行の柄を創出し、商品化を進めていた。ここに、趣味の普及は、流行の商品の消費に限りなく近づいて、やがて、流行現象は、日用品・



作品展示発表

子供用品・家具装飾にまで拡大され、「最新流行の」 「モダンな」ライフスタイルを象徴した。その後の大衆消費社会は、このようにして戦前期に準備されていたのである。

5) 懇親会

A館4階の会議室を会場とし、学内食堂ニッコク・トラストに委託して開催。参加者は50名。伊藤紀之大会担当理事の司会で、石井とめ子会長の挨拶・石山彰前会長による乾杯・歓談の合間に遠

来の参加者のご紹介・各担当理事からの会務連絡なども加えて、終始なごやかに交流の時を共有した。窓越しの夕暮れの景色は、すっかり夜景に変わり、最後は、蔵方宏昌理事が“ファッションへの係わりには、ゆとりの心を大切に”との言葉で締め括られ、閉会となった。

6) 見学会

2日目の13時から14時30分まで、文化学園服飾博物館にて、時代衣装20数体のオープン展示の前に着席して、小宮真喜子学芸員より「ドレスを彩る帽子・靴・バック…1800-1960s」展に因むフロアレクチャーを受けた後、1・2階を自由に見学した。特設のテーブルに用意された扇・バック・アリセサリーなど、7・8点の資料を眼の前にして、細部の観察ができたことも有意義であった。休館日に本学会員のみの特別入館という高配を得て、恵まれた見学会となり、参加者は61名を数えた。

(実行委員長 佐藤 泰子)



平成16年度総会

★5月22日(土)

口頭発表	
14:05	・座長 鷹司 綸子 A-1 浴衣のデザインについて ー江戸時代中・後期を中心にー 同志社女子大学 清水久美子 A-2 「辻が花染」の文献資料について ー南蛮資料の読み方ー 早見芸術学園 葉山美知子

15:20	・座長 徳井 淑子 A-3 『女学雑誌』にみる服飾関連記事について ー明治18年～20年ー 同志社女子大学 ○戸田賀志子 清水久美子
15:40	・座長 永井 房子 A-4 人形芸術・様式の展開とその周辺(III) 山野美容芸術短期大学 澤村 英子
16:20	A-5 韓国の婚礼服の過去と現在 共立女子大学大学院 ○金 美淑 共立女子大学 伊藤 紀之 野澤久美子
16:30	特別講演「近代日本と流行 ー拡大する商品世界と意識の変容ー」 神野 由紀 氏
17:50	
18:00	懇親会 <文化女子大学 A045>
19:30	

★5月23日(日)

口頭発表	
9:00	・座長 鍛島 康子 B-1 明治・大正期創刊の少女雑誌 ー「少女の友」を中心にー 共立女子大学研究生 ○永田麻里子 共立女子大学 伊藤 紀之 野澤久美子 B-2 ウェディングドレスのデザイン分析 鎌倉女子大学 長田美智子
	・座長 石井とめ子 B-3 卒業研究指導における紅型染め訪問着の制作 東京家政学院大学 藤居真理子
	B-4 クリノリン・ドレスの構成技法について ー実物史料調査ー 文化女子大学 塚本 和子
10:30	

11:00

展 示 発 表	
• 座長 藤居眞理子	
C-1 シルクオーガンジーと原毛による布	相模女子大学 池田 節子
C-2 再利用の材料をデザインポイントにしたドレス	—不要になったネクタイを利用したドレス 2着— 和洋女子大学 榎本 春栄
C-3 とうもろこし繊維の特性を生かしたデザイン	大妻女子大学非常勤講師 ○大網美代子 大妻女子大学 石井とめ子
• 座長 常見美紀子	
C-4 教材研究として、文献を用いてのレプリカ作成	—19世紀の婦人靴— 和洋女子大学 ○諏訪原貴子 鷹司 繪子
C-5 アレクサンドル・ロドチェンコのワークスーツのデザイン検証	—ロシア・アヴァンギャルドの衣服— 滋賀県立大学 森下あおい
• 座長 高野 美栄	
C-6 兜からのヒントによる帽子(2)	前跡見学園女子大学短期大学部 ○松本由伎子 跡見学園女子大学短期大学部 本間小枝子
C-7 ニットとシルクペーパー(蚕による)のコラボレーション	和洋女子大学非常勤講師 多田 洋子
• 座長 飯塚 弘子	
C-8 スラッシュキルト 2題	相模女子大学短期大学部 田中 百子
C-9 ハワイアン精神とハワイアンキルトの密接な関係について	和洋女子大学 堀 ひろみ
• 座長 本間小枝子	
C-10 永禄9(1566)年銘入小袖の再現	—仕立て上の試み— 元文化女子大学短期大学部 丸山須磨子
C-11 「モラ」手法を用いた帯の製作	東京家政学院大学 松本 幸子

12:00

夏期セミナーを終えて

平成16年度第5回夏期セミナーは山梨県郡内地方を中心に、別添のプログラムのようなスケジュールで行われた。例年2泊3日で行われていたものを1日短縮して実施したが、26名の参加者があった。地理的な要素もあって、例年ほとんど参加の無い関西方面からの参加者が多かった印象がある。



山梨県富士工業技術センター
講演「郡内織物業について」歌田 誠氏

第1日目は13時に富士急行線富士吉田駅に集合し、順次タクシーに乗り合わせて山梨県富士工業技術センターに移動した。工業技術センター繊維部の歌田主任研究員の講演に先立ち、石井とめ子会長が開会の辞を述べ夏期セミナーが開始された。講演はまず、工業技術センター繊維部の歴史やその職務について話があり、来年で設立100周年になることや年間3,500件の試験依頼があり、それと並行して連日のように染色堅牢度等の事故の解決依頼があるとのことであった。引き続き、郡内織物の現状について具体的な数字を挙げて説明があった。郡内では現在、織物工場数が550社、織機台数が2,300台であり、平均1社4台の保有となる。織物に係する人数は約1,200人で、昨年度の織物産額が120億円であった。織物の種類では、産額で見ると先染めネクタイ、傘地、カーテン地、高級婦人服地、背広裏地の順になる。ネクタイはブランド品の委託生産が多く、国産品の約25%を占める。傘地は例えばバーバリーの小売価格が2

万円の傘を織っており、売れ行きが好調で、高級カーテン地と同様、24時間フル操業でも生産が追いつかない状況である。婦人服地はオーダーメイド用のシルク製品が中心で、背広裏地は緯糸にキュプラ、経糸にポリエステルを用いた、他の産地にはない郡内だけの製品を生産しているとのことであった。最後に参加者からの質問に答える形で、郡内機業の業態について説明があり、ここでは親バタといわれる織機を全く持たない業者が商社や問屋から注文を取り、賃バタに指示して織らせるというシステムが紹介された。講演の後、センターの施設見学に移り、歌田氏や職員の説明を聞きながらドビーやジャガード機の操業現場を見学した。

センター到着と同時に突然の雷雨に見舞われたが、猛烈な雨の中、再度タクシーに乗り合わせて富士セイセンに移動した。富士セイセンは様々な布製品に仕上加工を行う工場であり、社長の桜井氏から企業紹介を兼ねた工場の作業内容についての話を拝聴した後、2班に分かれて工場を見学した。工場では、撥水加工、抗菌・防臭加工といった樹脂加工をはじめ、各種の仕上げ加工の現場を工場幹部の説明を受けながら見て回ったが、先の歌田氏の講演にもあったバーバリーの傘地の加工現場も見ることができた。この工場では郡内機業



富士セイセン工場見学

の特性でもある少量多品種の商品群を効率良く加工していくことを特長の1つにしており、郡内機業に直結した、欠くことのできない企業であると痛感させられた。

工場見学の後、宿舎に入り、近くの料理店で懇親会を行った。懇親会では、自己紹介を兼ねて各自ショートスピーチを行い、互いの親睦を図った。

2日目は当初の出発予定を早め、郡内地域産業振興センターに立ち寄った。ここでは郡内地方を中心に、山梨県の地元産品を展示販売しており、郡内織物の実物も多く見ることができた。

次に訪れたのは久保田一竹美術館で、一竹辻が花の作品が多数展示されており、見るものを圧倒

第5回夏期セミナープログラム

日	時	内 容
8月10日 (火)	13:00	富士急行線富士吉田駅集合
	13:20	山梨県富士工業技術センター着
	13:30~13:35	夏期セミナー開会の辞
	13:40~15:10	講演『郡内織物業について』・館内見学：歌田 誠氏
	15:30	富士セイセン着
	15:40~16:30	富士セイセン工場見学
	17:00	ホテル「登り坂」着
	18:00	懇親会割烹「宮森」
8月11日 (水)	9:00	宿舎発
	9:20~9:50	郡内地域産業振興センター見学
	10:20~11:40	久保田一竹美術館・大石紬伝統工芸館見学
	12:10~13:00	昼食「富士ビューホテル」
	15:00~16:00	「和紙の里」見学
	17:30	甲府駅着・解散

する迫力が感じられる。私も織物製作に携わっているがその気迫にしばし茫然とさせられた。

郡内最後の見学地は大石紬伝統工芸館である。事前の下見で、今年は春先の霜で桑がやられ、養蚕ができず、繭が無いため実際に織っている人は居ないことが判明したので、今回は展示品の見学のみとなった。

富士ビューホテルで昼食をとった後、本栖湖の湖岸で湖水とお別れをし、あいにくの天候で一度も顔を出してくれなかった富士山に未練を残しな

がら甲府盆地へと下った。最終見学地の和紙の里がある中富町は、書道用紙の産地として有名なところである。館内には地元産品をはじめ全国の和紙産地から多数の和紙が集められ、あらゆる和紙製品が展示・販売されている。ここで参加者は約1時間、見学や買物を楽しんだ後、甲府駅に向かった。予定より早く、5時前に到着し、駅前で解散となった。

(夏期セミナー担当 石山 正泰)



「和紙の里」の前で

会計報告

① 服飾文化学会平成 15 年度 (2003) 収支決算報告
(H15. 4. 1~H16. 3. 31)

(単位: 円)

費 目	予 算	決 算	備 考
収 入			
会 費 収 入	804,000	1,029,000	@6,000×163 件
入 会 金 収 入	15,000	20,500	@3,000×17 件
年間購読料収入	36,000	42,000	@1,000×18 件
学会誌掲載料等	400,000	922,620	@500×5 件
前年度繰越金	13,846	13,846	@3,000×14 件
その他の収入	—	7	利子
計	1,268,846	2,027,973	
支 出			
経費			
1) 総会運営費	100,000	86,820	
2) 学会誌発行費	750,000	1,374,543	
3) 通 信 費	50,000	47,020	
4) 印 刷 費	140,000	157,659	会報 6 号, 7 号
5) 事務用品費	10,000	11,775	
6) 会 議 費	50,000	41,989	
7) 交 通 費	10,000	1,700	
8) 雑 費	10,000	640	
事業費			
1) 事 業 費 A	30,000	29,620	研究例会
2) 事 業 費 B	90,000	98,011	論文発表会
広報費	20,000	8,751	
予備費	8,846	49,918	
次年度繰越金	—	119,527	
計	1,268,846	2,027,973	

③ 服飾文化学会平成 16 年度 (2004) 収支予算

(H16. 4. 1~H17. 3. 31)

(単位: 円)

費 目	予 算	前 年 度	備 考
収 入			
会 費 収 入	900,000	804,000	
入 会 金 収 入	15,000	15,000	
年間購読料収入	36,000	36,000	
学会誌掲載料等	400,000	400,000	
前年度繰越金	119,527	13,846	
その他の収入	—	—	
計	1,470,527	1,268,846	
支 出			
経費			
1) 総会運営費	100,000	100,000	
2) 学会誌発行費	800,000	750,000	
3) 通 信 費	50,000	50,000	
4) 印 刷 費	180,000	140,000	
5) 事務用品費	10,000	10,000	
6) 会 議 費	50,000	50,000	
7) 交 通 費	10,000	10,000	
8) 雑 費	10,000	10,000	
事業費			
1) 事 業 費 A	30,000	30,000	研究例会
2) 事 業 費 B	100,000	90,000	論文発表会
広報費	20,000	20,000	
予備費	110,527	8,846	
計	1,470,527	1,268,846	

* 総会後、理事会の了承をへて平成 16 年度中に会員名簿を発行することになりました。なお、会員名簿発行に関わる全ての経費は特別会計より支出いたします。

② 特別会計

○大会・夏期セミナー等余剰金 1,269,452 円
 内訳 前年度繰越金 981,890 円
 平成 15 年度分 287,527 円
 利子 35 円

*****お知らせ*****

●平成 16 年度 (2004) 論文発表会

期日: 平成 17 年 (2005) 3 月 4 日 (金)

会場: 実践女子大学 (東京都日野市)

* 詳細は追ってお知らせ致します。

*** 会員から～出版のお知らせ～***

●岩崎雅美氏編『中国・シルクロードの女性と生活』 (大阪・東方出版 TEL: 06-6779-9571)

2004 年 8 月 26 日発行

A5 判 138 頁, カラー写真 189 点

定価 2,100 円 (税込)

*****編集後記*****

会報第 8 号は、初代会長から新会長へ、本会の新たな歩みのご報告です。次号への、皆様からのご意見・お知らせなどをお待ちしております。

(会報担当 岡田)

会 報 No.8: 平成 16 年 (2004) 9 月発行
 編集発行人: 服 飾 文 化 学 会
 事務局: 〒 102-8357 東京都千代田区三番町 12
 大妻女子大学第三被服意匠学研究室
 TEL: 03-5275-6029/FAX: 03-3261-8119